

Q 上手な医療機関への かかり方は？

A 小児科のかかりつけ医を作ることです。
例えば予防接種スケジュールはとても複雑！体調不良で受けられない時の変更など、かかりつけ医にお任せするのが安心です。また、身体発育の評価は1回測っただけでは、わからないこともあります。
経過を見ていく必要がありますので、かかりつけ医に定期的に身長、体重や発育のチェックをお願いしましょう。

Q 外来か入院かの瀬戸際だと言われました。お預かりしている子を家でみるのは不安です。

A 里親さんの立場では、子どものことが心配であるのに加えて、お預かりしているお子さんであるゆえのプレッシャーもありますよね。
もしも治療が遅れたらというお気持ちで、一晩中起きてお子さんの様子をみていたという話もよくお聞きします。
お子さんを預かっているという事情を小児科の先生にお話しして、入院のご相談をしてはいかがでしょうか。

里親制度や特別養子縁組について さらに知りたい人のために

厚生労働省

- 『里親制度等について』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/syakaiteki_yougo/02.html

- 『特別養子縁組制度について』

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169158.html>

政府広報オンライン

- 『特別養子縁組制度をご存じですか？』

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201706/1.html>

- 『児童虐待から子どもを守るための民法の「親権制限制度」』

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201203/1.html>

引き続きフェイスブックページ

『里親さん・養親さんと小児科医療者をつなぐ』でお役立ち情報を公開します。

<https://www.facebook.com/SatooyashienByPed/>



連絡先：石崎優子

〒570-8507

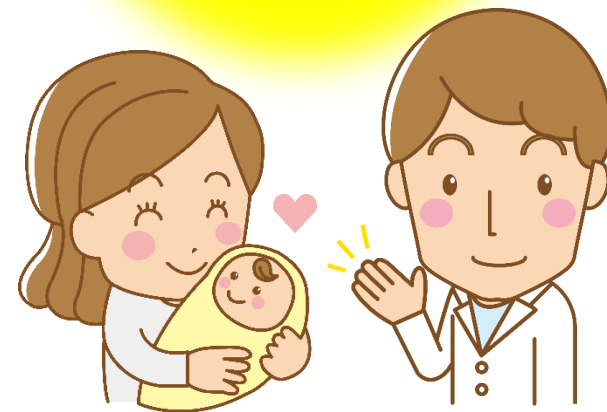
守口市文園町10-15

関西医科大学総合医療センター 小児科

TEL **06-6992-1001**(代)

子育て中の
里親・養親さんへ

医療者からの メッセージ



このリーフレットは(公)明治安田こころの
健康財団2019年度研究助成を頂き作成しました。

研究代表者：石崎優子（関西医科大学小児科）

研究協力者：

池田友美（摂南大学看護学部）

竹中義人（たけなかキッズクリニック）

長濱輝代（大阪市立大学生生活科学研究科）

東野博彦（東野医院）

古川恵美（兵庫県立大学看護学部）

Q 子どもの成長、身体発育が遅れていないか
気になります。

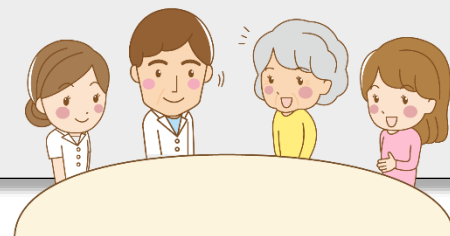
A 子どもの成長を客観的にみるには継続的に身長と体重を測定する必要があります。母子健康手帳には成長曲線・肥満度曲線が掲載されているので、記録してください。乳幼児期には成長に栄養摂取量が大きく影響しますが、出生体重や両親の体格にも左右される事があります。それらの情報が不足している場合、成長曲線をつけても判断に迷うことがあると思います。ご心配な場合は近くの小児科で成長の評価をお願いします。

Q 養子縁組成立前で、子どもの姓が里親と違います。医療機関で親の姓で呼んでもらえますか。

A 養子縁組が成立する前で子ども自身や近所の人が事情を知らない場合、子どもの実親の姓を呼ばれることに抵抗がありますね。また虐待を受けたお子さんで実の姓で呼ばれたくないこともあります。同意書や保険請求など実親の姓を使わなければならない場合以外は、前もって医療機関の窓口で呼んでほしい子どもの姓名を伝えておきましょう。

Q 小児科医にどんなことが相談できますか？

A 小児科医は子どもの総合医です。子どもの病気、身体発育、心の成長、すべてをトータルでみています。子どもの成長には心の要因と身体の要因の両方がかかわっていますから、まずは小児科医に相談し、必要があればそこから専門機関や必要なサービスを紹介してもらいましょう。



Q まるで赤ちゃんに戻ったように今までできていたことが急にできなくなりました。

A 赤ちゃん言葉やイヤイヤ、おっぱいを触る、おもらしなど「赤ちゃん返り」として知られる行動の変化は、「退行」と呼ばれる心の安全装置の一つです。環境に適応しようとする子どもなりの努力の表れですので、否定せずやさしく受け止めてください。ただ、頭では分かっているけど対応にはたくさんのエネルギーが必要です。どうぞ親御さんご自身のセルフケアも大切にしてくださいね。

Q 母子手帳をどう活用すればいいのでしょうか？



A 母子手帳（法律上の正式名称は「母子健康手帳」）は、子どもの健康記録をまとめた1冊の手帳です。子どもと家族が主体となって健康記録を所持・記載することが出来る特長があります。子どもの大切な成長の記録ですので、どんどん書き込みをしてください。最新の書き込みのある母子手帳は、医療者にとっても、お子さんの成長を把握する上でとても役立ちます！

Q 子どもへの関わり方を学ぶペアレント・トレーニングはどんなものですか

A 親が、子どもへのより良い関わり方を学びながら、日頃の子育ての困りごとを減らし、楽しく子育てができるようになるものです。発達障害のある子どもの親向けに開発され、現在は幅広い目的で実施されています。子どもの行動を分析し、ほめるべきところを見つけ、適切にほめる等の内容からなります。現在、難しい対応を求められることもある養親・里親向けのプログラムが開発されている途中です。